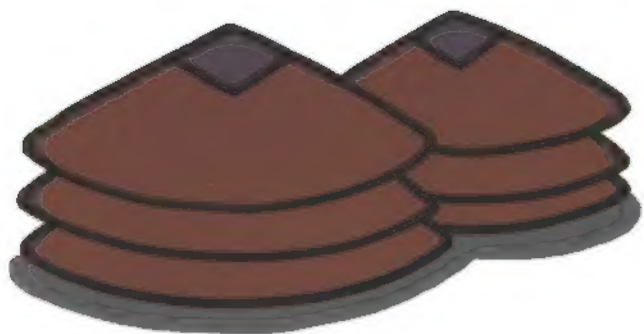
おはなしシリーズ

5

かさじぞう





びんぼうな　おじいさんと　おばあさんが　いました。
「かさを　うって　たべものを　かってくるよ。」
おじいさんは　ゆきの　なかを　でかけていきました。
「かさは　いらんかね。　かさは　いらんかね。」
かさを　かう　ひとは　だれも　いません。
「きょうは　さっぱりだ。　いえに　かえるとするか。」

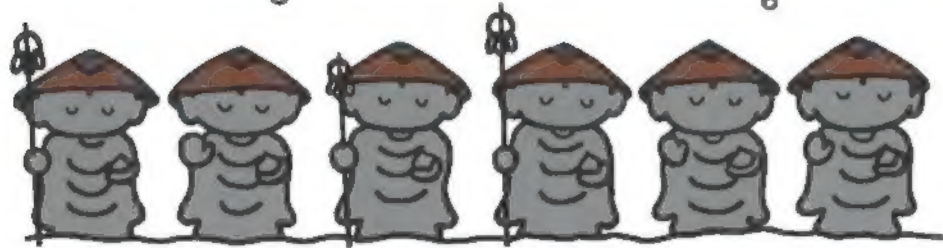


とちゅうの　みちに　おじぞうさまが　たっていました。
「おじぞうさま　ゆきのなかで　さむかろう。」



おじいさんは　おじぞうさまに　かさを　かぶせました。
ところが　ひとつだけ　かさが　たりません。
「おじぞうさま　これで　かんべんしてくだされ。」
おじいさんは　じぶんが　かぶっていた　かさを　ぬいで
おじぞうさまに　かぶせました。
「これで　おじぞうさまも　さむくないだろう。」

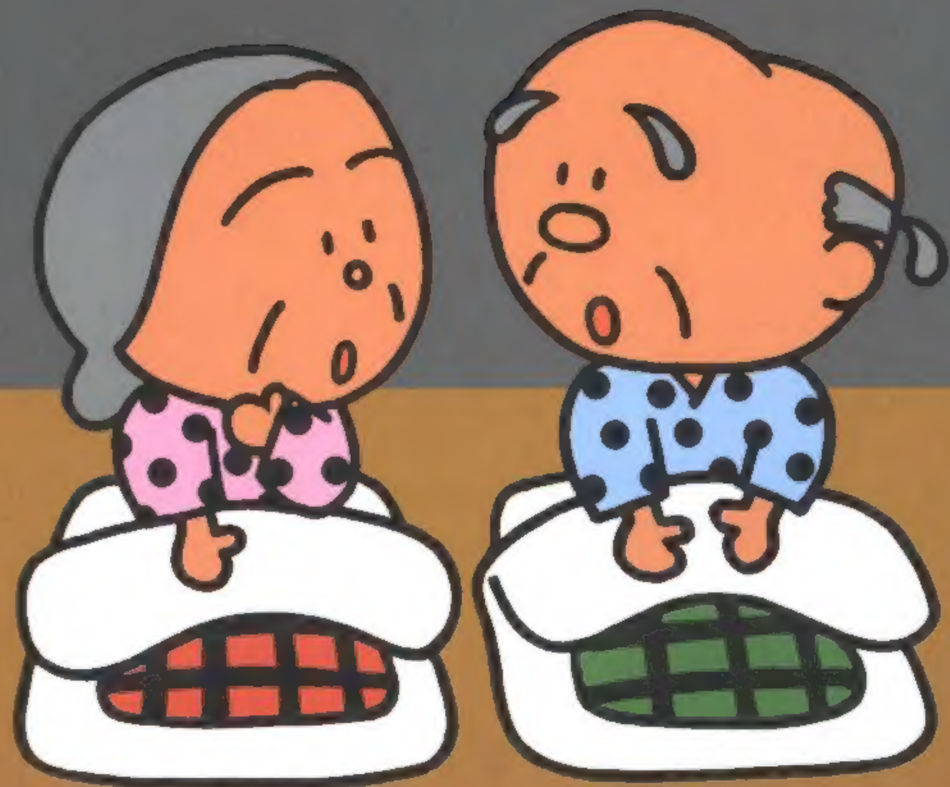




「ばあさま　きょうは　かさが　ひとつも　うれんかった。
かえりみち　おじぞうさまが　さむそうだったので
かさを　ぜんぶ　おじぞうさまに　かぶせてきたよ。」
「それは　それは　じいさま　よいことを　しましたね。
なかに　はいって　はやく　あったまってくださいな。」



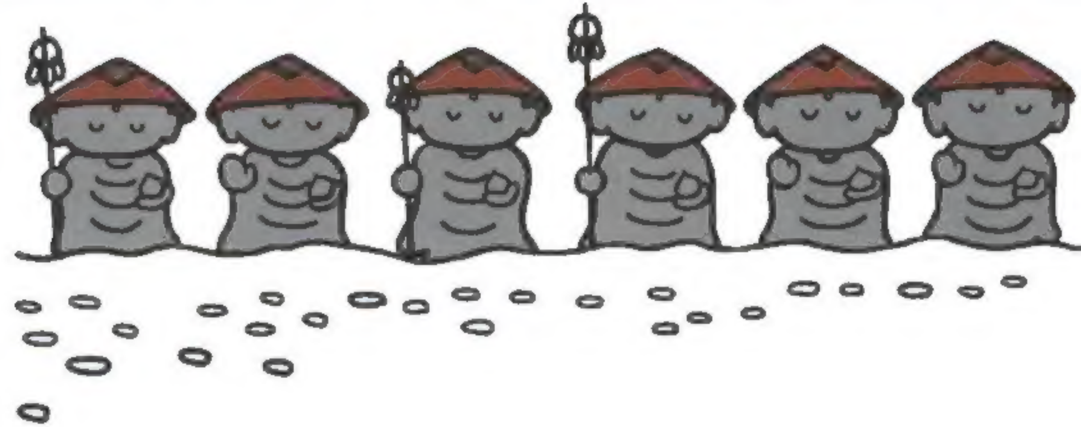
よるになって　おじいさんと　おばあさんが　ねていると
どこからか　かけごえが　きこえてきました。
「よっこいせ　どっこいせ。 よっこいせ　どっこいせ。」
かけごえが　だんだん　おおきく　なってきて　いえの
まえで　どすーんと　おおきな　おとが　しました。




「あれ　なんと　まあ。」
たべものと　おかねが　はいった　ふくろが
いえのまえに　どっさり　つまれていたのです。







よくみると　ゆきに　ちいさな　あしあとが　あります。
あしあとを　たどっていくと　おじいさんが　かさを
かぶせてあげた　おじぞうさまのまえに　つきました。
「おじぞうさまが　かさの　おれいに　くれたのか。」
それからは　おじいさんと　おばあさんは
ずっと　ゆたかに　くらしました。